パラ陸上 代表12人内定

女子400 辻2大会連続

辻沙絵

日本パラ陸上競技連盟と日本知的障がい者陸上競技連盟は10日、新たに東京パラリンピック代表に内定した12選手を発表し、2016年リオデジャネイロ大会女子400㍍（上肢障害T47）銅メダルの辻沙絵（日体大教）らが選ばれた。

4月1日まで2年間の世界ランキングで出場枠を獲得した選手を、両連盟が選出した。18年平昌（ピョンチャン）冬季大会女子アルペンスキー金メダリストの村岡桃佳（トヨタ自動車）も100㍍（車いすT54）で代表入りし、冬夏連続でパラリンピック出場を決めた。

マラソンは男子（上肢障害T46）の永田務（新潟県身体障害者団体連合会）と女子（車いすT54）の喜納翼（タイヤランド沖縄）が初めての出場。辻は「自分自身がコントロールできることにフォーカスし、大会本番まで最大限の準備をして試合に挑みたいと思います」とコメントした。

上冬夏連続パラリンピック出場が決まった村岡桃佳
下4月のアルペンスキーアジアカップに出場した村岡

村岡 冬夏連続

女子100

封印した夢 実現

アルペンスキーの女王が車いすランナーとして国立競技場を走ることになった。本格的に陸上に取り組み約2年で東京大会出場を決めた村岡は「一人でも多くの皆様に応援していただけるよう、一人のアスリートとして今できることに全力を注いでいきます」とコメントした。

4歳で横断性脊髄炎を発症し、車いす生活になった村岡。小学2年生で陸上に出会い、その後、スキーで頭角を現した。強豪・早大スキー部に進んだ当初は、「陸上もやりたい」と競技両立の希望を持っていたという。当時、監督だった倉田秀道氏がスキーに専念させたことでトップアスリートに成長し、平昌大会で金を含むメダル5個を獲得してスターとなった。

冬のパラで多くの応援を受けたことで、自国開催の夏の大舞台への思いが強くなった。2019年春に岡山市の車いす陸上チームに加わった当初は練習についていくのが精いっぱいだった。だが、その年の冬に陸上に専念することで筋力や持久力を強化。20年1月の国際大会で100㍍を16秒34の好タイムで走り、実力で代表の切符をつかんだ。

「その背中を見ている子どもたちもいる。本番では大暴れしてほしい」（倉田氏）。スキーに続き陸上でも世界の頂点へと挑む。

（帯津智昭）